

森は水の源(みなもと) 水は命(いのち)の源 川は命のつながり

上流は下流を思い、下流は上流に感謝する木曽川・飛騨川・愛知用水の交流を

2024 いきいき今池お祭り(大バザール)に取り組みます！

9月15日、16日 皆さん、お出かけください

今年も9月15日(日)、16日(月・祝)、今池商店街西南エリアに木曽広域連合の方々とみん・みんの会でバザールに出店します。

木曽のトウモロコシと野菜やみん・みんの会の取り扱っている味噌「みなもと」、「木曽川流域図」、エコバッグ、木祖村の畑で栽培している枝豆(写真)などを販売する予定です。枝豆は昨年まで取り組んできた大豆作りの延長で、木祖村・笹川さんのご厚意により今年から取り組んでいます。私たちの手の届かないところを笹川さんがカバーしてくださって実現できました。

今池まつりは数年の間、コロナ禍で開催できなかった年もありました。荒天により一日だけの開催となったことも。この取り組みによって得た収益は全額「水源の里基金」に積み立てられ、木曽の高校生の木のおもちゃ作りの支えとなっています。二日間の取り組みです。ブースに是非お越しください。皆さんの参加をお待ちしております。(事務局 近藤)

恒例の味噌の天地返し(木曽町)と草取りに取り組む(木祖村)



みん・みんの会スタッフの小池糶店における味噌の天地返し作業は、お昼から参加となりました。

2011年から2024年まで、途中の2020年はコロナ禍で、出来ませんでした。お手伝いというより交流が主な目的として続けることが出来ました。

木曽駒高原にある小池糶店の味噌蔵、その窓ぎわに置いてある1.5トンの樽から人の力で小型の特別なスコップでバケツに取り、中央の樽に移し替えるという手間のかかる作業です。

いつもは唐沢さんたちが一人でコツコツ行うとのこと。それでも私たちの2~3人分と同じスピードでしか

もバケツの外にこぼさないようです。プロですから。

今年は名古屋生活クラブのスタッフと会員の方々が15名、午前中から大樽に取り組み、また、重し用のたくさんの重たい石を洗う作業を終えておりました。

みん・みんの会の小さな樽=『みなもと』の玉造りと突き込みの天地返しも名古屋生活クラブの会員さんと私たちで行いました。中には味噌づくりの経験者の方もおりましたが、これだけ大きな樽での天地作業が大変なこと、小さな樽でもカビをはやさないための細かな作業に新たな発見をしてくれた方も。

夕方、生活クラブの皆さんは帰名、残った私たちでもうひと仕事。一区切りつくところまで作業。夜は心づくしの料理に、お酒にいつも感謝。天地返しの作業から夜の交流・食事に木曽の崖家づくりを研究対象として論文を書いた中谷さんも参加。賑やかな夜となりました。

翌朝、木祖村の枝豆の畑(写真)にて草取り作業。枝豆は一般の大豆よりさやの付き方が下の部位から付きはじめ、さやの数もいくらか多いように感じます。枝豆用は初めての試みで大いに楽しみです。

木祖村も日射しの下では暑いのですが、木陰に入ると涼しく感じます。しかし、十年前はこんなに暑くはなかったのに…と思いつつ。

木祖村の笹川さんのお世話になりながら無事作業を終えることができました。(事務局 近藤)

<第 17 回「木曽の手仕事市」 9月 21、22 日に開催>

9月 21 日（土）、22 日（日）の両日、第 17 回「木曽の手仕事市」が木曽福島町内で行われます。今回、144 の漆、木工、ガラス、陶器、皮などのクラフトマンが全国から来ます。また、こだわりのキッチンカーも 18 店舗ほど出店します。毎年、1 万人ほどの方が来場され、大変な賑わいです。

回数を重ねてきたこともあってか、木曽に移住して木曽で工房を構えるクラフトマンも毎年ごとに増えてきています。とても素晴らしいことだと思います。

是非、数多くの独創的な作品を手にとって見に行ってください。お気に入り、世界に一つだけの作品に出会えるかも…（唐沢） URL : <https://kiso-teshigotoichi.com/>



木曽青峰高校インテリア科 5 人の高校生

～木製玩具の制作を依頼、作品づくりが始まっています～

6 月 14 日（金）、木曽青峰高校インテリア科を名古屋科学館・山田さん、木曽広域連合地



域振興課・下野さんとともに訪問しました。今年度もインテリア科の 5 人の女子高校生に名古屋科学館へ来年 2 月に贈呈する木のおもちゃ作りを依頼しています。そのための最初の「ごあいさつ」に行ってきました。

当日は、1 人が体調の関係でお休みでしたが、

4 人とおもちゃ作りについて話し合ってきました。A さん（木祖村）は日本文化としてある「けん玉」をヒントにしたおもちゃ作り、Y さん（木曽町）は「はめ込んで遊ぶ」おもちゃ作り、U さん（木祖村）は「移動パズル」、O さん（木曽町）は「ねこちゃん」、残念ながら会えなかった T さん（大桑村）は「ボールを叩いて入れるおもちゃ」作りです。そして、今回も担当する先生は山下さんです。写真をご覧ください。皆さん、想像できますか!?

「科学の入り口として木のおもちゃがあります」「安全性と壊れない作品作りをお願いします」と科学館学芸員の山田さんが話しました。2013 年から今までに 41 の作品が科学館に贈呈されていますが、今回は、これらの作品とは異なる、ほぼ初めてのユニークなおもちゃになるだろうと私たちは感じました。楽しみです。

（事務局 かわさき）

崖家づくり 暮らしている人とその場所が、たまり場や交流の拠点に!

長野県木曽町にある木曽青峰高校インテリア科を訪問した後、いつも木曽川に架かっている行人橋を渡って小池糶店へ行き、唐沢さんと談笑します。その時、いつも気になっていたのが行人橋から見える崖家づくりの家並みです。「どんな暮らしぶりなのか」「どんな人が住んでいるのか」…、と思い描いていました。今回、お願いして崖家づくりの中に入れていただきました。

7 月 10 日（水）、11 時から 13 時の時間で「崖家づくりの暮らしウォッチング」を行いました。暮らしの現場を見学させていただきながら、「どのように使われているのか、居心地の具合、これからのこと…」を聞かせていただきました。通りからお宅にお邪魔して驚いたのが、部屋から部屋に廊下ではなく、部屋同士でつながっていることでした。



部屋から眼下に流れる木曽川、そのせせらぎの音やさわやかな風が私たちの身体を包み込みます。こ

の住宅のオーナーである上村さんは「クーラー、要りません。川の音、全然気になりません」「昨晚も 20 人ぐらい集まって、ここでワイワイしました」と話されました。そして、お部屋にある南米パラグアイの楽器・アルパで、「アメイジング・グレイス」など3曲演奏していただきました（写真）。



音楽会を開いたり、飲食を一緒に楽しんだりしながらのコミュニティ空間！うらやましい！暮らしている人とその場所が、たまり場や交流の拠点になっていると感じました。

「上村さんは、この崖家づくりの家で生まれ育った人です。子どもの時は下屋（しただや：1 階より下の階）からすぐに川へ出て遊んだそうです。毎日、目の下には木曾川が流れていて、目の前を鳥が飛び、山をみれば新緑や紅葉を楽しませてくれます。この住み慣

れた家や風景がずーっと続けば良いのですが、昨今は住民の高齢化や、空き家なども増えて来ているのが現状です。」*

この間、崖家づくりの風景に、注目が集まり始めています。長野県岡谷市出身の中谷さんが大学院での修士論文で、崖家づくりを取り上げ、大学の研究発表で優秀賞、さらに全国修士論文賞に推薦され、そこでも審査員賞を受賞されました。その研究の目的を「木曾町福島という場所において崖家づくりの民家群が形成され、これまでに存続してきた過程と、変化の経緯について明らかにする…」と論文に記載されています。私が、特に関心を持ったのは木曾町の崖家づくりと全国に類似する4つの民家群（京都市、郡上市、下仁田町、足助町）の事例について、現地調査を行って町の特性や民家形態の比較を行ったところです。川沿いの傾斜地に川に迫り出すように並ぶ民家群、これを「崖家づくり」というのは、木曾町だけとか。木曾川と暮らしが繋がっている景観を「ジブリの映画に出てくる風景」と木曾を訪れた人びとが共感しているとのことでした。

木曾川上流域の“木曾にある宝物の一つ”として上下流交流しながら持続的に維持できていけたらと思いました。（事務局 かわさき）

*（『みんなの会 会員だよりNo.38』 小池糶店・唐沢尚之さんの文章、ご覧下さい）

飛騨川沿い・七宗町の赤池弁財天祭り&「豆釜匠」（飛水食品）で交流

5月3日（金・祝）、「緑と清流の里」の岐阜県七宗町に行ってきました。まず、飛騨川沿いの国道41号線を北上したところにある「豆釜匠」（飛水食品）の渡邊昇さんとお会いして語り合ってきました。4月20日（土）、木曾町での「春の蔵開き」で渡邊さんとお会いしたことから、その感想などをお聞きしました。美味しい心太（トコロテン）をいただきながら、これからの新しい試みについてもお聞きすることができました。話のキーワードは「つながり」「人と会うこと」だったと思います。

この日は毎年恒例の赤池弁財天祭り（写真）にも、



出かけていきました。

老若男女の笑顔がいっぱいの祭りで、特に子どもたちの声が響き渡っていました。その現場で前の町長だった井戸さんに久しぶりにお会いすることができました。(かわさき)

♪ 第50回木曾音楽祭 絶妙のアンサンブルに感動 ♪

今年50回目を迎えた木曾音楽祭が8月23日～26日、木曾町木曾駒高原にある木曾文化公園文化ホールで開催されました。



国内一流演奏者が集うコンサート。最終日、シェーンベルクの浄夜、モーツァルトのピアノ協奏曲23番は奏者の繊細な弓使い、ピチカートの指使い、息使いが絶妙のアンサンブルを生み感動。浄夜はCDでは聴き取りにくい弱い弦の響きから始まるのですが、本演奏では微妙なニュアンス表現からダイナミックな弦楽の響きが奥深さを感じ演奏後の鳴り止まぬ拍手。ライブはいいな！と。続いての23番もピアノソロと他の奏者との掛け合い、カデンツァも楽しめました。

ロビーには50回目を記念して過去のポスターの展示。当初の国際音楽祭のそうそうたる奏者にびっくり。フルニエ(写真)、堤剛、店村らのチェロ聴きたかった！松本のサイトウキネンとは趣を異にする木曾駒高原に響くコンサート。来年も行きたい！

(みん・みんの会 シノザキ)

涼やかな風と音楽で夏バテ解消

みん・みんの会のメンバー『小池糰店』の先代社長が「木曾に最上の音楽を」との思いで始まった木曾音楽祭。かねてから参加したいと思っていたが、50回の節目を迎えた2024年、やっと実現できた。木曾には名古屋と比べて10度は低い涼やかな気候、森林浴、滝、そして素敵な音楽があった。当日は恵みの雨も降り、酷暑でカラカラだったココロとカラダが一気に潤った。

●音楽祭

音楽祭は前夜祭を含め4日間の開催。私は最終日、8月25日午後2時からのグノー、シェーンベルクとモーツァルトのプログラムを選んだ。会場となる木曾文化公園文化ホールには満員御礼の立て看板。ロビーには第1回からのポスターが飾られていた。演奏会の前はアルプホルンの歓迎演奏。胸が高まる。演奏は噂に聞いた通りの完成度の高さ。個人の演奏家たちがなぜこれほど息も



会場前の“ホルン”が木曾駒高原に響く

ぴったり演奏できるのか。謎も多いが50回も続けてこられた地元の方々の熱意が偲ばれた。

●南宮の滝

演奏会前に少し時間があり、日義にある道の駅で『南宮神社の旭の瀧』を教えていただき、出

かけててみた。小さいながら落差 20 メートルもの滝は迫力があり、滝の背後のうっそうとした森林群からもマイナスイオンをいただいた。

●木曾音楽祭 50 周年記念誌を発行

50 周年記念誌が発行される。この音楽祭が新たな歴史に向かって歩むことを祝した記念誌となるはずだ。(販売価格 1,000 円/限定 200 部)

来年も元気で小さな町の素敵な音楽祭に参加できたらと願う。(日進市・山根倫代)

名古屋市科学館で木曾ヒノキからアロマオイルを抽出！ 親子で取り組む

8 月 10 日名古屋市科学館にて「木曾ヒノキに触れるワークショップ」が行われました。

8 日、宮崎沖での地震の影響を受けて 9 日開催は中止となりましたが、10 日の午前と午後
の二回、小学生と保護者を一組として 12 組の参加で行われました。

名古屋市科学館と木曾広域連合の方々、上松の「ひのき精香」の吉川さん、木祖村の地域
おこし協力隊スタッフの皆さんが、このワークショップを準備。木曾と名古屋の永く深い結
びつきの歴史を振り返りながら今日の環境問題の大切さを訴えた後に早速、実験開始。

たちまち実験室の中はひのきの香りに包まれ、暑さも忘れて子どもたちも大人たちもア
ロマの溜まる試験管に夢中。持ち帰り容器に移し終えた試験管の内面を紙でふき取るとそ
の香りには参加者一同感激。

アロマオイル抽出の後にはヒノキのカンナ
くずを使ったボンボンづくり。

慣れないカンナくずと格闘しながらもそれ
ぞれにボンボンを作り上げることができました。

このヒノキのワークショップは以前参加し
た方も再び応募するほど人気があるそうで
すが、初めての参加者を優先していますとのこと。

皆さん、来年 8 月 8～9 日(金、土)予定のワークショップに参加してみませんか。(近藤)



「地産地消」～木祖村・トウモロコシ、満足充実の味！

今年の夏のはじめのころから、店頭に並ん
だ販売用の米が減り始めて、米の在庫不足が
消費者の関心を引きました。政府は政府備蓄
米から 127 トンの備蓄米支援を行って、消費
者の不安の解消を行いました。私たちの日本
の食料自給率は、38%。この先、米のほかに
農産物の生産不足が起きた時、輸入がスト
ップした時にはどうするか。

「食料・農業・農村基本法」が定められて
いて、その中に、輸入ストップ時の「いざと
いう時の食事メニュー」を「米・小麦中心」

と「イモ類中心」の 2 パターンに分けて示し
ています。「イモ類中心」メニューは、1 日
イモ 3 食、米は 1 日 1 食、おかずは野菜 3 食、
魚は 1 日 1 回、卵は 1.5 か月に 1 個、肉は
23 日に 1 皿、牛乳は 4 日にコップ 1 杯。

私たちは、やはり地産地消、地域で農産物
を生産し、地域で分かち合って食べていく道
を切り開いていくしかない。

ところで、長野県源流の里・木祖村の地域
おこし協力隊のメンバーであり、みん・みん
の会の会員でもある丸山さんが、この夏、木

祖村にてトウモロコシ作りで孤軍奮闘！ ロコシをいただきました。地産地消の満足充
「なごや生活クラブ」を通して、このトウモ 実の味！です。(水原)

映 画

「劇場版 アナウンサーたちの戦争」

毎年8月になると、映画やテレビでは戦争に関する番組が組まれるようになる。今年もNHKでは、無謀な特攻作戦に焦点をあてた「“一億特攻”への道～熱狂と暴走の果てに～」を始めとする優れたドキュメンタリーが放映された。NHKのニュース報道や政治部は政府の御用機関のようだが、一方でドキュメンタリーやテレビドラマには、政府におもねる事なく鋭く問題を追求した社会性の強い番組もある。朝ドラの「虎に翼」などいい例だ。

現在公開中の『劇場版 アナウンサーたちの戦争』は、2023年8月にNHKスペシャルで放映され反響を呼んだドラマを映画化したもので、軍部による“大本営発表”を支え戦争推進の一躍を担うことになった日本放送協会のアナウンサーたちの葛藤を描いた映画だ。

主役は、戦前のスターアナウンサーで、「双葉70連勝ならず！」の実況で名をはせた和田信賢アナ（森田剛）。共演は新進気鋭の館野守男アナ（高良健吾）をはじめ全員実名での登場である。

開戦当初は緒戦の勝利を力強く読み国民を熱狂させていたが、戦況悪化の中、大本営発表を疑問視する和田アナと、「国家の宣伝者」を自認する館野アナが激しく対立する。原稿を読む無力さに苦悩する和田アナの姿が痛々しい。結局和田アナは終戦の「玉音放送」の担当となり、詔書の内容を国民にわかりやすく伝える事となる。

マスコミの役割を自ら問いただす内容であり、見応えのあるドラマだ。(三田)

<お知らせ>

☆12月7日(土)午後1時開場、1時半から「ソーネ・おおぞね」ホールで、みんなの会の第14回総会を開催します。会員の皆さん、ご参加ください。

続いて、午後2時30分前後から木曽川上下流交流・連携の集いを行います。

*会場：大曽根駅下車、徒歩10分。名古屋市北区山田町2-11-62 大曽根住宅1棟1階
総会では①2023年度活動報告 ②2023年度会計報告(収支決算) ③「木曽川流域水源の里基金」の報告と今後の運用 ④2024年度活動計画 ⑤2024年度予算などを報告・提案します。
15周年の節目として、今回は午後2時30分前後から4時半まで、“まちづくり”を視点にして「木曽川上下流交流・連携」「都市部と農山村地域との流域連携」を軸にして下記のコラムを参考にしながら話し合いたいと考えています。

全国町村会が発行している『町村週報』にコラム欄があり、刺激的な文章が掲載されています。今年度では、小田切徳美さん(明治大学教授)が『「ごちゃまぜ」の効用』(4月15号)、岡崎昌之さん(法政大学名誉教授)が「“ゼロサムゲーム”などではない—真摯に移住者と地域を結ぶ—」(7月15日号)、藤山浩さん(持続可能な地域社会総合研究所長)が「ローカルコモンズを創り直す」(8月12日号)…などです。

詳しくは、次号でお知らせします。皆さん、よろしく申し上げます。

水源の里を守ろう 木曽川流域みんなの会

連絡先：〒464-0075 名古屋市千種区内山3-7-11
携帯電話：090-4150-6156(近藤) F A X : 0574 - 64 - 4747 mail:suigenosato@gmail.com